

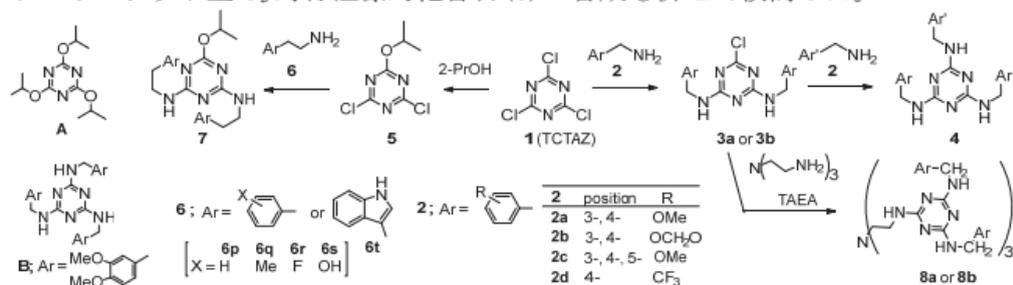
# 23PO-am088

新規トリポータル受容体型 CS 対称性三置換 1,3,5- トリアジン誘導体およびハイブリッド型 C<sub>3</sub> 対称性 1,3,5- トリアジン誘導体の合成と抗ウイルス活性

○山田 華愛<sup>1</sup>, 壬生 伸子<sup>1</sup>, 横溝 和美<sup>2</sup>, 松山 純子<sup>1</sup>, 朝長 祥子<sup>1</sup>, 飯田 将也<sup>2</sup>, 橋口 兼人<sup>2</sup>, 周 建融<sup>2</sup>, 須本 國弘<sup>1</sup> (<sup>1</sup>福岡大薬, <sup>2</sup>崇城大薬)

【目的】トリポータル受容体型分子の分子認識能と生体機能分子の高い対称性に着目し、C<sub>3</sub> 対称性構造を基盤に C<sub>3</sub>/C<sub>s</sub> 対称性分子を設計し生物活性化合物の探索を展開中である。すでに 1,3,5-トリアジン(TAZ)を基盤とした三置換 TAZ 誘導体中に高い抗ウイルス活性(抗 HSV-1)の化合物(A や B など)を見出した。<sup>1,2)</sup> 今回、これらをリード化合物とした関連分子(4, 7, 8)を設計・合成し活性評価を検討する。

【実験方法】TCTAZ (1)から、中間体(3 または 5)を経て標的化合物(4 または 7)を合成した。中間体(3)からはトリス(2-アミノエチル)アミン(TAEA)との反応によりハイブリッド型 C<sub>3</sub> 対称性標的化合物(8)の合成も併せて検討した。



【結果・考察】中間体(3 または 5)からアルキルアミノ置換 TAZ 誘導体(4 または 7)の合成はマイクロ波照射により簡便に達成できた。合成した種々のハイブリッド型誘導体(8)の抗 HSV-1 活性についても報告する。

【引用文献】1) Mibu N., Yokomizo K., Sano M., Kawaguchi Y., Morimoto K., Shimomura S, Sato R., Hiraga N., Matsunaga A., Zhou J.-R., Ohata T., Aki H., Sumoto K., *Chem. Pharm. Bull.*, **66**, 830 (2018). 2) Mibu N., Yokomizo K., Yuzuriha A., Otsubo M., Kawaguchi Y., Sano M., Sakai I., Nakayama K., Zhou J.-R., Sumoto K., *Heterocycles*, **94**, 1653 (2017).